

『移動する地域社会学—差異・共生・アクターネットワーク理論』

参考文献一覧

《邦語・邦訳・中国語文献》

- 青木聡子 (2023) 「原発に抗う人びと——芦浜原発反対運動にみる住民の闘いと市民の支援」
茅野恒秀・青木聡子編『地域社会はエネルギーとどう向き合ってきたのか シリーズ
環境社会学講座 2』新泉社.
- 青森県 (1999) 「青森県自治体病院機能再編成指針」.
- 青森県健康福祉部 (2015) 「地域医療構想策定に係る説明会及び第 1 回圏域ヒアリング資料」.
青森県健康福祉部自治体病院機能再編成推進チーム (2003) 「西北五地域保健医療圏におけ
る自治体病院機能再編成について」.
- アガンベン、ジョルジョ (2007) 『ホモ・サケル——主権権力と剥き出しの生』高桑和巳訳、
以文社. (Giorgio Agamben, 2005, *Homo sacer: Il potere sovrano e la nuda vita*, Einaudi.)
- 浅川達人 (2022) 『都市を観る——社会地図で可視化した都市社会の構造』春風社.
- 浅野一弘・湯淺壘道 (2013) 「個人情報の取り扱いと情報セキュリティ対策のあり方——地
方自治体における危機管理の観点から」『電気通信普及財団研究調査報告書』28: 1-17.
- 渥美公秀 (2001) 『ボランティアの知——実践としてのボランティア研究』大阪大学出版会.
—— (2003) 「災害ボランティアの動向——阪神・淡路大震災から中越地震を経て」『大阪
大学大学院人間科学研究科紀要』33: 97-112.
—— (2011) 「災害ボランティア活動——被災地で望まれる活動の仕方」『アニムス』68.
—— (2014) 『災害ボランティア——新しい社会へのグループ・ダイナミックス』弘文堂.
——・鈴木勇・菅磨志保・柴田慎士・杉万俊夫 (2004) 「災害ボランティアセンターの機
能と課題——宮城県北部地震を事例として」『京都大学防災研究所年報』47B: 81-7.
——・石塚裕子編 (2021) 『誰もが〈助かる〉社会——まちづくりに織り込む防災・減災』
新曜社.
- アパデュライ、アルジュン (2004) 『さまよえる近代——グローバル化の文化研究』門田健
一訳、平凡社. (Arjun Appadurai, 1996, *Modernity at Large: Cultural Dimension of
Globalization*, University of Minnesota press.)
- 阿部清・佐藤耕治郎 (1960) 「紙漉業の盛衰過程について」『宮城農業短期大学学術報告』7.
- 天野徹 (2013) 「コミュニティ・ネットワークによる被災地支援活動の展開——広域・創発
型 CN が拓いた新たな災害支援の可能性」『社会情報学』2 (2).
- アルヴァックス、モーリス (1989) 『集合的記憶』小関藤一郎訳、行路社. (Maurice Halbwachs,
1950, *Le Mémoire collective*, PUF.)
- アーリ、ジョン (1995) 『観光のまなざし』加太宏邦訳、法政大学出版局. (John Urry, 1990,
The tourist Gazes, Sage.)
—— (2003) 『場所を消費する』吉原直樹・大澤善信監訳、法政大学出版局. (John Urry, 1995,
Consuming Places, Routledge.)
—— (2006) 『社会を越える社会学——移動・環境・シチズンシップ』吉原直樹監訳、法
政大学出版局. (John Urry, 2000, *Sociology beyond Societies*, Routledge.)

- (2014)『グローバルな複雑性』吉原直樹監訳、法政大学出版局。(John Urry, 2003, *Global Complexity*, Cambridge: Polity.)
- (2015)『モビリティーズ——移動の社会学』吉原直樹・伊藤嘉高訳、作品社。(John Urry, 2007, *Mobilities*, Polity.)
- 伊関友伸 (2014)『自治体病院の歴史——住民医療の歩みとこれから』三輪書房。
- 伊勢田哲治 (2003)『疑似科学と科学の哲学』名古屋大学出版会。
- 板倉有紀 (2018)『災害・支援・ケアの社会学——地域保健とジェンダーの視点から』生活書院。
- 伊藤憲二 (2021)「専門知と社会」松本三和夫編『科学社会学』東京大学出版会。
- 伊東信雄 (1979)『仙台郷土史の研究』宝文堂。
- 伊藤嘉高 (2004)「開発のレトリックとローカル・ガバナンスの歴史的位相——仙台市長町地区のまちづくりを対象に」東北都市学会編『仙台都市研究』4: 41-57
- (2005)「地域共同性の現代的位相と地域住民組織——仙台市域の町内社会」コミュニティ・自治・歴史研究会編『ヘスティアとクリオ』1: 58-83.
- (2006a)「過剰都市化に伴う町内共同性の変容——仙台市域町内会の制度論的転回に向けて」『日本都市学会年報』39: 91-102.
- (2006b)「グローバル複雑系における『地域的なもの』の位置とその可能性——複雑系社会学と地域社会学の交接」『社会学年報』35: 141-62.
- (2008a)「町内会の現状と課題——非制度的な共同性の復権のために」『仙台都市研究』6: 11-36.
- (2008b)「ポスト開発主義期における地域社会の社会文化的ポテンシャル——バリ島南部観光開発地域の事例から」吉原直樹編『グローバル・ツーリズムの進展と地域コミュニティの変容——バリ島のバンジャールを中心として』御茶の水書房。
- (2008c)「住区協議会」橋本和孝・藤田弘夫・吉原直樹編『世界の都市社会計画——グローバル時代の都市社会計画』東信堂。
- (2013)「日常性のなかの防犯コミュニティ」吉原直樹編『安全・安心コミュニティの存立基盤』御茶の水書房。
- (2014)「書評 近森高明・工藤保則編『無印都市の社会学』」『三田社会学』19: 111-8.
- (2015)「創発する場所」吉原直樹・掘田泉編『交響する空間と場所 II——創られた都市空間』法政大学出版局。
- (2020)「アリは老いたるモグラを助けるか——アクターネットワーク理論で〈資本〉を発見する」『季刊 iichiko』147: 83-95.
- (2021a)「アクターネットワーク理論と人間科学——媒介子としての身体を記述する」『社会学年誌』62: 7-22.
- (2021b)「コロナ禍の『社会』を組み直す」『社会学研究』106: 37-56.
- (2022a)「ANTと法——ANTは無責任な理論なのか」栗原亘編『アクターネットワーク理論入門——「モノ」であふれる世界の記述法』ナカニシヤ出版。
- (2022b)「多重なる世界と身体——媒介子としての身体のゆくえ」栗原亘編『アクターネットワーク理論入門——「モノ」であふれる世界の記述法』ナカニシヤ出版。
- , 村上正泰, 佐藤慎哉, 嘉山孝正 (2011)「山形県一般病院における医師不足の現況」

- 『山形医学』29 (1): 1-18.
- , 村上正泰, 佐藤慎哉, 新澤陽英, 嘉山孝正 (2012) 「自治体病院再編に対する住民サイドからの事後検証——置賜総合病院を核とした自治体病院再編を対象にして」『日本医療・病院管理学会誌』49 (4): 27-36.
- 井上達夫 (2017) 『自由の秩序——リベラリズムの法哲学講義』岩波書店.
- 今井信雄 (2019) 「記憶のかたち——災害の『まえ』と『あと』をつないで伝える」吉野英岐・加藤眞義編『震災復興と展望——持続可能な地域社会を目指して』有斐閣.
- 岩崎信彦 (2010) 「『住縁アソシエーション』としての町内会・再論」『ヘスティアとクリオ』9: 5-17.
- (2016) 「災害資本主義とリスクマネジメント——阪神大震災 20 年と東日本大震災 4 年から見えてくること」『地域社会学会年報』28: 45-60.
- 岩本裕子 (2011) 「社協と民間ボランティアセンターの関係に見る社協ボランティアセンターの課題——歴史的経緯と設立時の論争が、現代に問いかけるもの」『人間福祉学研究』4 (1): 105-17.
- インゴルド、ティム (2022) 『生きていること——動く、知る、記述する』柴田崇・野中哲士・佐古仁志・原島大輔・青山慶・柳澤田実訳、左右社。(Tim Ingold, 2011, *Being Alive: Essays on Movement, Knowledge and Description*, Routledge.)
- ヴィヴェイロス・デ・カストロ、エドゥアルド (2018) 「パースペクティブの人類学と制御された取り違えという方法」近藤宏訳『現代思想』46 (1): 197-212. (Eduardo Viveiros de Castro, 2004, 'Perspectival Anthropology and the Method of Controlled Equivocation,' *Tipiti: Journal of the Society for the Anthropology of Lowland South America*, 2(1): 3–20.)
- ヴィッカーズ、エイドリアン (2000) 『演出された「楽園」——バリ島の光と影』中谷文美訳、新曜社。(Vickers, Adrian, 1989, *Bali: A Paradise Created*, Ringwood, Penguin.)
- ヴェルシュ、ヴォルフガング (1998) 『感性の思考——美的リアリティの変容』小林信之訳、勁草書房。(Wolfgang Welsch, 1991, *Asthetisches Denken*, Stuttgart.)
- 浦野正樹 (2008) 「自主防災活動の組織化と展開」吉井博明・田中淳編『災害危機管理論入門』弘文堂.
- エリオット、アンソニー (2022) 『デジタル革命の社会学——AI がもたらす日常世界のユーートピアとディストピア』遠藤・須藤・高岡・濱野訳、明石書店。(Anthony Elliott, 2019, *The Culture of AI: Everyday Life and the Digital Revolution*, Routledge.)
- 遠藤英樹 (2023) 「『メディア誘発型観光』研究の刷新——観光とメディアが接合するプラットフォームの『政治的無意識』」『観光学評論』11 (2): 101-113.
- 越智昇 (1980) 「地域組織の日本的構成」蓮見音彦・奥田道大編『地域社会論』有斐閣.
- (1990) 「ボランティア・アソシエーションと町内会の文化変容」倉沢進・秋元律郎編『町内会と地域集団』ミネルヴァ書房.
- 大槻博 (1985) 「柳生紙の歴史研究——仙台近郊地場産業の盛衰」1985 年上越教育大学大学院修士論文.
- 大西裕 (2004) 「グッド・ガバメントからグッド・ガバナンスへ？」黒岩郁雄編『発展途上国におけるガバナンスの諸課題』アジア経済研究所.
- 奥田道大 (1971) 「コミュニティ形成の論理と住民意識」磯村英一ほか編『都市形成の論理

- と住民』東京大学出版会.
- (2004)『都市コミュニティの磁場』東京大学出版会.
- 小國和子 (2003)『村落開発支援は誰のためか』明石書店.
- 小野寺拓也・田野大輔 (2023)『検証 ナチスは「良いこと」もしたのか?』岩波書店.
- 大矢根淳 (2010)「災害・防災研究における社会関係資本 (Social Capital) 概念」『社会関係資本研究論集』1: 45-74.
- 鏡味治也 (2000)『政策文化の人類学——せめぎあうインドネシア国家とバリ地域住民』世界思想社.
- 桂悠介 (2020)「創発的パラダイムとしての『共生学』の確立に向けて——共生の諸課題とメタ理論的視座の必要性」『共生学ジャーナル』4: 1-29.
- 金木病院の救急体制を維持する会事務局 (2007)『金木病院救急再開物語 (上・下)』欧文印刷.
- 金菱清 (2013)「大震災における不可視のマイノリティ」田中重好・船橋晴俊・正村俊之編『東日本大震災と社会学——大災害を生み出した社会』ミネルヴァ書房.
- ガーフィンケル、ハロルド (1987)「エスノメソドロジー命名の由来」ガーフィンケルほか『エスノメソドロジー——社会学的思考の解体』山田富秋ほか編訳、せりか書房.
- 上村靖司・筒井一伸・沼野夏生・小西信義編 (2018)『雪かきで地域が育つ——防災からまちづくりへ』コモンズ.
- 川田順造 (1997)「いま、なぜ『開発と文化』なのか」『岩波講座 開発と文化 I』岩波書店.
- カンギレム、ジョルジョ (1987)『正常と病理』滝沢武久訳、法政大学出版局. (Georges Canguilhem, 1966, *Le normal et le pathologique, augmenté de Nouvelles réflexions concernant le normal et le pathologique*, PUF.)
- 菅野拓 (2016)「行政・NPO/NGO 間の災害時連携のために平時から備えるべき条件」『地域安全学会論文集』29: 115-24.
- ギアツ、クリフォード (1990)『スガラ——19世紀バリの劇場国家』小泉潤二訳、みすず書房. (Clifford Geertz, 1980, *Negara*, Princeton University Press.)
- &ヒルドレッド・ギアツ (1989)『バリの親族体系』吉田禎吾・鏡味治也訳、みすず書房. (Hildred Geertz and Clifford Geertz, 1975, *Kinship in Bali*, The University of Chicago Press.)
- 岸政彦 (2013)『同化と他者化——戦後沖縄の本土就職者たち』ナカニシヤ出版.
- (2018)『マンゴーと手榴弾——生活史の理論』勁草書房.
- 編 (2021)『東京の生活史』筑摩書房.
- 北田暁大 (2022)『実況中継・社会学——等価機能主義から学ぶ社会分析』有斐閣.
- 木田勇輔・成元哲 (2021)「なぜ居住地域の社会環境が重要か——孤独の集積と住民のウェルビーイング」『中京大学現代社会学部紀要』15(1): 69-92.
- ギデنز、アンソニー (1993)『近代とはいかなる時代か?——モダニティの帰結』松尾精文・小幡正敏訳、而立書房. (Giddens, Anthony, 1990, *The Consequences of Modernity*, Stanford University Press.)
- 金信行 (2021)「解説論文 経験的研究においてブリュノ・ラトゥールの理論はいかなる意義を持つのか——ラトゥールが行った経験的研究の比較検討に基づくアクターネット

- ワーク理論の学説史／理論研究」ブリュノ・ラトゥール『ラボラトリー・ライフ——科学的事実の構築』立石裕二・森下翔監訳、ナカニシヤ出版。
- 木村繁高（2007）「青森県『西北五地域医療を守る会』の取り組みから」日野秀逸編「地域医療最前線——住民のいのちを守る政策と運動」『自治体研究社』。
- 木村至聖（2014）『産業遺産の記憶と表象——「軍艦島」をめぐるポリティクス』京都大学学術出版会。
- （2022）『歴史と理論からの社会学入門』ナカニシヤ出版。
- 木村孝文（2001）「太白の散歩手帖——郡山から二口までの史跡を訪ねて」宝文堂。
- ギルロイ、ポール（2006）『ブラック・アトランティック——近代性と二重意識』上野・毛利・鈴木訳、月曜社。（Paul Gilroy, 1993, *The Black Atlantic: modernity and double consciousness*, Verso.）
- ギーエン・ヌーニェス、セザール（1993）『マカオの歩み』西山・泉田訳、学芸出版社。（Cesar Guillen-Nuñez, 1984, *Macau*, Oxford University Press.）
- グッドマン、ネルソン（1987）『事実・虚構・予言』雨宮民雄訳、勁草書房。（Nelson Goodman, 1979, *Fact, Fiction and Forecast*, Harvard University Press.）
- 久保明教（2019）『ブルーノ・ラトゥールの取説——アクターネットワーク論から存在様態探求へ』月曜社。
- （2021）「コントロールされた多義の誤謬——ヴィヴェイロス・デ・カストロにおける人類学的翻訳」『くにたち人類学研究』14: 1-18.
- 熊本博之（2021）『交差する辺野古——問いなおされる自治』勁草書房。
- クライン、ナオミ（2011）『ショック・ドクトリン 上・下——惨事便乗型資本主義の正体を暴く』幾島幸子・村上由見子訳、岩波書店。（Naomi Klein, 2007, *The Shock Doctrine: The Rise of Disaster Capitalism*, Metropolitan Books.）
- 倉沢進編（1986）『東京の社会地図』東京大学出版会。
- 倉田和四生（1999）『防災福祉コミュニティ——地域福祉と自主防災組織の統合』ミネルヴァ書房。
- 栗原亘編（2022）『アクターネットワーク理論入門——「モノ」であふれる世界の記述法』ナカニシヤ出版。
- クリフォード、ジェームズ（2002）『ルーツ——20世紀後期の旅と翻訳』毛利嘉孝ほか訳、月曜社（James Clifford, 1997, *Routes*, Harvard University Press.）
- グレマス、A. J.（1988）『構造意味論——方法の探求』田島宏・鳥居正文訳、紀伊國屋書店。（A. J. Greimas, 1966, *Sémantique structural: Recherche de méthode*, Larousse.）
- 黒田由彦（2013）『ローカリティの社会学——ネットワーク・集団・組織と行政』ハーベスト社。
- ゲーレン、アーノルト（1985）『人間——その本性および自然界における位置』平野具男訳、法政大学出版局。（Arnold Gehlen, 1962, *Das Mensch*, Athenaüm.）
- 國分功一郎（2017）『中動態の世界——意志と責任の考古学』医学書院。
- ・熊谷晋一郎（2020）『〈責任〉の生成——中動態と当事者研究』新曜社。
- 小坂井敏晶（2002）『民族という虚構』東京大学出版会。

- 小山弘美 (2022) 「コロナ禍におけるまちづくり活動の継続と展開に関する一考察——世田谷区まちづくり活動を事例に」『地域社会学会年報』34: 41-56.
- 今野裕昭 (2001) 『インナーシティのコミュニティ形成——神戸市真野住民のまちづくり』東信堂.
- 齊藤綾美 (2009) 『インドネシアの地域保健活動と「開発の時代」』御茶の水書房.
- 齊藤康則 (2008) 「地域社会学の研究視角の変遷と今日的課題——『規範的なもの』との再統合に向けて」『地域社会学会年報』20: 142-6.
- (2019) 「もう一つのコミュニティ形成——「みなし仮設」と「同郷サロン」から考える仙台の復興」吉野英岐・加藤眞義編『震災復興と展望——持続可能な地域社会を目指して』有斐閣.
- 酒井泰斗・浦野茂・前田泰樹・中村和生編 (2009) 『概念分析の社会学——社会的経験と人間の科学』ナカニシヤ出版.
- ・浦野茂・前田泰樹・中村和生・小宮友根編 (2016) 『概念分析の社会学2——実践の社会的論理』ナカニシヤ出版.
- 阪口毅 (2022) 『流れゆく者たちのコミュニティ——新宿・大久保と「集合的な出来事」の都市モノグラフ』ナカニシヤ出版.
- 阪本真由美 (2013) 「行政と NGO・NPO との連携による被災者支援について——被災者支援4者連絡協議会の取組より」『地域安全学会東日本大震災特別論文集』2: 5-8.
- 佐川英雄編 (2011) 『いま果たすべき社会福祉法人の使命と役割』全国社会福祉協議会.
- サッチマン、ルーシー (1999) 『プランと状況的行為』佐伯胖監訳、産業図書. (Lucy Suchman, 1987, *Plans and Situated Actions: The Problem of Human Machine Communication*, Cambridge University Press.)
- 佐藤恵 (2010) 『自立と支援の社会学——阪神大震災とボランティア』東信堂.
- 佐藤俊樹 (2017) 「データを計量する社会を推論する——「新たな」手法が見せる社会科学と社会」『社会学評論』68 (3): 404-423.
- 佐藤哲郎 (2012) 「社会福祉協議会が展開するボランティアセンターの評価方法について——プログラム評価によるロジック・モデルの活用」『松本大学研究紀要』10: 105-18.
- 佐藤裕 (2023) 『ルール科学——方法を評価するための社会学』青弓社.
- 塩出浩和 (1999) 『可能性としてのマカオ——曖昧都市の位相』垂紀書房.
- 渋谷敦司 (1994) 「地域社会研究とジェンダー」地域社会学会編『地域社会学会年報』6.
- 清水高志 (2013) 『ミシェル・セール——普遍学からアクターネットワークまで』白水社.
- (2017) 『実在への殺到』水声社.
- 清水洋行 (2006) 「地域フィールドワーク実践と地域社会学」似田貝香門監修、町村敬志編『地域社会学講座1 地域社会学の視座と方法』東信堂.
- 清水亮 (2015) 「帰還と生活安全」似田貝香門・吉原直樹編『震災と市民2——支援とケア』東京大学出版会.
- 寿岳文章 (1970) 『紙漉旅日記』春秋社.
- 庄司知恵子 (2011) 「町内会と自主防災組織」吉原直樹編『防災コミュニティの基層——東北六都市の町内会分析』御茶の水書房.
- ・伊藤嘉高 (2012) 「都市部町内会における東日本大震災への対応——盛岡市松園地

- 区北松園町内会『北松園自主防災隊』の事例」吉原直樹編『防災の社会学 第二版——防災コミュニティの社会設計に向けて』東信堂。
- ジンメル、ゲオルク (1977)『ジンメル著作集 9 生の哲学』茅野良男訳、白水社。(Georg Simmel, 1918, *Lebensanschauung: Vier metaphysische Kapitel*, Suhrkamp.)
- 菅磨志保 (2007)「災害時におけるボランティア活動の展開——阪神・淡路大震災以降の変化を中心として」『減災』2: 141-153.
- 鈴木章弘 (2013)「青森県西北五地域における自治体病院再編成の取組み」『全国自治体病院協議会雑誌』52 (6): 115-9.
- (2014)「青森県西北五地域における自治体病院再編成」『月刊 地方財政』53(11): 246-62.
- 鈴木和歌奈 (2020)「実験室から『相互の係わりあい』の民族誌へ—ポスト・アクターネットワーク理論の展開とダナ・ハラウェイに注目して」『科学・技術・社会』29: 3-29.
- 震災復興調査研究委員会 (1997)『阪神・淡路大震災復興誌 第一巻』二一世紀ひょうご創造協会.
- ストラザーン、マリリン (2015)『部分的つながり』大杉高司・浜田明範・田口陽子・丹羽充・里見龍樹訳、水声社。(Marilyn Strathern, 2004, *Partial Connections: Updated Edition*, Rowman Altamira.)
- 関嘉寛 (2013)「復興における市民の力」田中重好・船橋晴俊・正村俊之編『東日本大震災と社会学——大災害を生み出した社会』ミネルヴァ書房.
- 関礼子 (2018)「災害をめぐる『時間』の社会学」関礼子編『被災と避難の社会学』東信堂.
- 全国社会福祉協議会 (2011a)「東日本大震災 災害ボランティアセンター報告書」.
- (2011b)「東日本大震災 被災地社協における被災者への生活支援・相談活動の現状と課題——大規模災害における被災者への生活支援のあり方研究報告書」.
- 仙台市社会福祉協議会 (2004)「小地域福祉ネットワーク活動推進ガイドブック」
- ソーカル、アラン&ジャン・ブリクモン (2000)『「知」の欺瞞——ポストモダン思想における科学の濫用』田崎晴明・大野克嗣・堀茂樹訳、岩波書店。(Alan Sokal and Jean Bricmont, 1997, *Impostures intellectuelles*, Odile Jacob.)
- ソシュール、フェルディナン・ド (1991)『ソシュール講義録注解』(前田英樹訳)法政大学出版局。(Ferdinand de Saussure, 1957, *Cours de linguistique générale (1908-1909). Introduction (d'après des notes d'étudiants)*, Edition préparée par R. Godel, In Cahiers Ferdinand de Saussure (15) : 3-103.)
- ソルニット、レベッカ (2010)『災害ユートピア』亜紀書房。(Rebecca Solnit, 2009, *A Paradise Built in Hell: The Extraordinary Communities that Arise in Disaster*, Viking.)
- 大門大朗・渥美公秀 (2018)「災害後の被災地における被災者と支援者の関係を考える——2016年熊本地震における災害ボランティアセンターの事例から」『災害と共生』2 (1): 25-32.
- 高木竜輔・佐藤彰彦・金井利之編 (2021)『原発事故被災自治体の再生と苦悩——富岡町10年の記録』第一法規.
- 高橋典史・白波瀬達也・星野壮編 (2018)『現代日本の宗教と多文化共生——移民と地域社

- 会の関係性を探る』明石書店.
- 高橋雅也 (2002) 「地域文化づくりにおける『地域性』の検討：仙台・青葉まつりの再編成とフォークロリズム」『仙台都市研究』1: 63-75.
- ダグラス、メアリ (1972) 『汚穢と禁忌』塚本利明訳、思潮社. (Mary Douglas, 1966, *Purity and Danger: An Analysis of Concepts of Pollution and Taboo*, Routledge and Kegan Paul.)
- 武岡暢 (2017) 『生き延びる都市—新宿歌舞伎町の社会学』新曜社.
- 武田俊輔 (2019) 『コモンズとしての都市祭礼——長浜曳山祭の都市社会学』新曜社.
- 竹端寛 (2012) 『枠組み外しの旅——「個性化」が変える福祉社会』青灯社.
- 立木茂雄 (2013) 「高齢者、障害者と東日本大震災——災害時要援護者避難の実態と課題」『季刊 消防科学と情報』111: 7-15.
- 田中重好 (1990) 「町内会の歴史と分析視角」倉沢・秋元編『町内会と地域集団』ミネルヴァ書房.
- (1992) 「コミュニティの『復権』は可能か——『公』と『私』に関連づけながら」金子勇・園部雅久編『都市社会学のフロンティア 3』日本評論社.
- (2007) 『共同性の地域社会学——祭り・雪処理・交通・災害』ハーベスト社.
- (2010) 『地域から生まれる公共性——公共性と共同性の交点』ミネルヴァ書房.
- (2019) 「津波の避難行動から」田中重好・黒田由彦・横田尚俊・大矢根淳編『防災と支援——成熟した市民社会に向けて』有斐閣.
- 田中輝美 (2021) 『関係人口の社会学——人口減少時代の地域再生』大阪大学出版会.
- 玉野和志 (2006) 「90年代以降の分権改革と地域ガバナンス」玉野和志・三本松政之編『地域社会の政策とガバナンス』東信堂.
- ・浅川達人編 (2009) 『東京大都市圏の空間形成とコミュニティ』古今書院.
- タルド、ガブリエル (2008) 「モナド論と社会学」『社会法則／モナド論と社会学』村澤真保 呂・信友建志訳、河出書房新社. (Jean-Gabriel Tarde, 1895, *Monadologie et sociologie*, Paris-Lyon, Storck et Masson.)
- 千川原公彦 (2013) 「東日本大震災——避難所の管理・運営とボランティア」『消防科学と情報』111: 47-51.
- 近森高明 (2005) 「『都市を歩く』再考——精神分析による都市経験の理解に向けて」『ソシオロジ』49 (3): 75-91.
- ・工藤保則編 (2013) 『無印都市の社会学——どこにでもある日常空間をフィールドワークする』法律文化社.
- つがる西北五広域連合 (2006) 「西北五地域における自治体病院再編成マスタープラン」
- (2009) 「西北五地域における自治体病院再編成マスタープラン (改訂版)」
- 筒井淳也・前田泰樹 (2017) 『社会学入門——社会とのかかわり方』有斐閣.
- 筒井のり子 (2013) 「災害時におけるボランティアコーディネーションの課題——東日本大震災におけるボランティアコーディネーション」『ボランティアリズム研究』2: 62-71.
- 鶴見和子ほか編 (1993) 『内発的発展論』東京大学出版会.
- デューイ、ジョン (2010) 『公衆とその諸問題』植木豊訳、ハーベスト社. (John Dewey, 1927, *The Public and its Problems*, Holt.)
- デュモン、ルイ (1993) 『個人主義論考——近代イデオロギーについての人類学的展望』渡

- 辺・浅野訳、言叢社。(Louis Dumont, 1983, *Essais sur l'individualisme: Une perspective anthropologique sur l'idéologie moderne*, Seuil.)
- デュルケーム、エミール (1985) 『自殺論』宮島喬訳、中公公論社。(Émile Durkheim, 1897, *Le suicide: étude de sociologie*, Alcan.)
- ドゥルーズ、ジル (2015) 『褻——ライプニッツとバロック』宇野邦一訳、河出書房新社。(Gilles Deleuze, 1988, *Le Pli-Leibniz et le baroque*, Minuit.)
- (2016) 『フランシス・ベーコン——感覚の論理学』宇野邦一訳、河出書房新社。(Gilles Deleuze, 1981, *Francis Bacon: Logique de la Sensation*, Éditions de la Différence.)
- &フェリックス・ガタリ (1986) 『アンチ・オイディプス——資本主義と分裂症』市倉宏祐訳、河出書房新社。(Gilles Deleuze and Felix Guattari, 1972, *L'Anti-OEdipe: Capitalisme et schizophrénie*, Éditions de Minuit.)
- ド・セルトー、ミシェル (1987) 『日常実践のポイエティック』山田登世子訳、国文社。(Michel de Certeau, 1984, *The Practice of Everyday Life*, University of California Press.)
- 東北経済産業局 (2002) 「プロジェクト Y」.
- 東北都市社会学研究会 (2008) 『地方都市における転換期町内会の動向——2006 年度山形市町内会・自治会調査結果報告書』.
- 戸田山和久 (2007) 「このテキストに科学論はありますか (書評: ラトゥール『科学論の實在』)」『科学』77 (9): 996-7.
- 豊田祐輔・鐘ヶ江秀彦 (2012) 「住民参加型防災マップづくりのコミュニティ防災への効果に関する研究」『立命館国際地域研究』35: 25-43.
- 鳥越皓之 (1994) 『地域自治会の研究——部落会・町内会・自治会の展開過程』ミネルヴァ書房.
- (1997) 『環境社会学の理論と実践——生活環境主義の立場から』有斐閣.
- 内閣府 (2013) 「災害時要援護者の避難支援に関する検討会報告書」.
- (2018) 「防災における行政の NPO・ボランティア等との連携・協働ガイドブック」.
- 内藤耕 (2009) 「競争のなかのバリのテレビ放送」倉沢愛子・吉原直樹編『変わるバリ 変わらないバリ』勉誠出版.
- 永井彰 (2008) 「災害弱者の支援と自立」吉原直樹編『防災の社会学』東信堂.
- 中川剛 (1983) 『海洋型アジア文化の基層』勁草書房.
- 中筋直哉 (1997) 「構造分析から社会過程分析へ」蓮見音彦・似田貝香門・矢澤澄子編『現代都市と地域形成——転換期とその社会形態』東京大学出版会.
- (2001) 「地域社会学における地方自治体研究の現代的課題」『社会志林』47(3): 61-74.
- (2023) 「都市社会学のコミュニティ論」吉原直樹編『都市とモビリティーズ』ミネルヴァ書房.
- 中田考・内藤正典 (2016) 『イスラームとの講和——文明の共存をめざして』集英社.
- 中田の歴史編集委員会 (1999) 『中田の歴史——写真資料編』.
- 中西典子 (1999) 「被災高齢者の生活再建と地域の再生がもつ意味——長田街区と具島街区の事例を通じて」岩崎信彦ほか編『阪神・淡路大震災の社会学 第2巻 避難生活の社

- 会学』昭和堂.
- 中野敏男 (1999) 「ボランティア動員型市民社会論の陥穽」『現代思想』27 (5): 72-93.
- 中原一步 (2011) 『奇跡の災害ボランティア「石巻モデル」』朝日新聞出版.
- 中村潔 (1990) 『「バリ化」について』『社会人類学年報』16: 179-191.
- (2009) 「バリにおける伝統と近代」倉沢愛子・吉原直樹編『変わるバリ 変わらないバリ』勉誠出版.
- (2015) 「バリにおける慣習村組織の変化とその非全体論的解釈」杉島敬志編『複ゲーム状況の人類学』風響社.
- (2019) 「コミュニケーション的存在論の人類学」杉島敬志編『存在論の人類学』臨川書店.
- 新原道信編 (2014) 『“境界領域”のフィールドワーク——“惑星社会の諸問題”に対応するために』中央大学出版部.
- 編 (2016) 『うごきの場に居合わせる——公営団地におけるリフレクシヴな調査研究』中央大学出版部.
- 二本立 (2020) 『コロナ危機後の医療・社会保障改革』勁草書房.
- 西川純司 (2022) 『窓の環境史——近代日本の公衆衛生からみる住まいと自然のポリティクス』青土社.
- 西宮ボランティアネットワーク (1995) 『ボランティアはいかに活動したか』NHK 出版.
- 西村雄郎 (2008) 『大阪都市圏の拡大・再編と地域社会の変容』ハーベスト社.
- 西山志保 (2007) 『改訂版 ボランティア活動の論理』東信堂.
- 西山康雄・西山八重子 (2008) 『イギリスのガバナンス型まちづくり——社会的企業による都市再生』学芸出版社.
- 似田貝香門 (2001) 「市民の複数性——今日の生をめぐる〈主体性〉と〈公共性〉」『地域社会学会年報』13: 38-56.
- (2006) 「越境と共存的世界」似田貝香門・矢澤澄子・吉原直樹編『越境する都市とガバナンス』法政大学出版局.
- (2008) 「防災の思想——まちづくりと都市計画の〈転換〉にむけて」吉原直樹編『防災の社会学』東信堂.
- 編 (2008) 『自立支援の実践知——阪神・淡路大震災と共同・市民社会』東信堂.
- 丹辺宣彦 (2003) 「集合行為と階層的集団形成」『社会学評論』54(1): 33-48.
- 仁平典宏 (2011) 『「ボランティア」の誕生と終焉——〈贈与のパラドックス〉の知識社会学』名古屋大学出版会.
- (2012) 「二つの震災と市民セクターの再編——3.11 被災者支援に刻まれた『統治の転換』の影をめぐって」『福祉社会学研究』9: 98-118.
- 二文字屋脩編 (2022) 『トーキョーサバイバー』うつつ堂.
- 野家啓一 (2003) 「物語り行為による世界制作」『思想』945: 54-72.
- 早川洋行 (2012) 『虚飾の行政——生活環境主義批判』学文社.
- 林真人 (2014) 『ホームレスと都市空間——収奪と異化、社会運動、資本-国家』明石書店.
- 林凌 (2021) 「出来事としての都市を考えるために——都市研究における「関係的思考」の理論的系譜とその問題点」平田周・仙波希望編『惑星都市理論』以文社.

- ハーヴェイ、デヴィッド (2007) 『ネオリベラリズムとは何か』本橋哲也訳、青土社。(David Harvey, 2005, *Spaces of Neoliberalization: Towards a Theory of Uneven Geographical Development*, Franz Steiner Verlag.)
- (2022) 『ポストモダニティの条件』吉原直樹・和泉浩・大塚彩美訳、筑摩書房。(David Harvey, 1989, *The Condition of Postmodernity*, Blackwell.)
- バーガー、ピーター (1979) 『聖なる天蓋——神聖世界の社会学』藺田稔訳、新曜社。(Peter L. Berger, 1967, *The Sacred Canopy*, Doubleday.)
- ハート、マイケル&アントニオ・ネグリ (2003) 『〈帝国〉——グローバル化と世界秩序とマルチチュードの可能性』水嶋一憲ほか訳、以文社。(Michel Hardt and Antonio Negri, 2000, *Empire*, Harvard University Press.)
- 橋本努 (2007) 『帝国の条件——自由を育む秩序の原理』弘文堂。
- バスカー、ロイ (2006) 『自然主義の可能性——現代社会科学批判』式部信訳、晃洋書房。(Roy Bhaskar, 1998, *The Possibility of Naturalism: A Philosophical Critique of the Contemporary Human Sciences 3rd Edition*, Harvester Press.)
- ハタノ、リリアン・テルミ (2006) 「在日ブラジル人を取り巻く『多文化共生』の諸問題」植田晃次・山下仁編 『「共生」の内実——批判的社会言語学からの問いかけ』三元社。
- ハッキング、イアン (2006) 『何が社会的に構成されるのか』出口康夫・久米暁訳、岩波書店。(Ian Hacking, 1999, *The Social Construction of What?*, Harvard University Press.)
- ハリソン、ロドニー (2023) 『文化遺産といかに向き合うのか——「対話的モデル」から考える持続可能な未来』木村至聖、田中英資、平井健文、森嶋俊行、山本理佳訳、ミネルヴァ書房。(Rodney Harrison, 2013, *Heritage: Critical Approaches*, Routledge.)
- 菱山宏輔 (2017) 『地域セキュリティの社会学——バリ島の近隣住民組織と多元的共同性』御茶の水書房。
- 平野隆之・小木曾早苗・児玉善郎・穂坂光彦・池田昌弘 (2014) 「東日本大震災における被災者支援の課題と今後の展開——自立支援を目指す地域支援の視点から」『日本福祉大学社会福祉論集』130: 67-88.
- 広田康生・藤原法子 (2016) 『トランスナショナル・コミュニティ——場所形成とアイデンティティの都市社会学』ハーベスト社。
- 廣松渉 (1993) 『近代世界を剥ぐ』平凡社。
- フェザーストーン、マイク、ナイジェル・スリフト&ジョン・アーリ (2010) 『オートモビリティーズ』近森高明訳、法政大学出版局。(Mike Featherstone, Nigel Thrift and John Urry eds., 2005, *Automobilities*, Sage.)
- フェルベーク、ピーター・ポール (2015) 『技術の道德化——事物の道德性を理解し設計する』鈴木俊洋訳、法政大学出版局。(Peter-Paul Verbeek, 2011, *Moralizing technology: Understanding and Designing the Morality of Things*, The University of Chicago Press.)
- 藤井和佐 (2011) 『農村女性の社会学』昭和堂。
- 藤垣裕子 (2003) 『専門知と公共性——科学技術社会論の構築へ向けて』東京大学出版会。
- 古川美穂 (2015) 『東北ショック・ドクトリン』岩波書店。
- ヘイデン、ドロレス (2002) 『場所の力——パブリック・ヒストリーとしての都市景観』後藤春彦・篠田佑見・佐藤俊郎訳、学芸出版社。(Dolores Hayden, 1995, *The Power of Place:*

urban landscapes as public history, MIT Press.)

- ベック・ウルリッヒ、アンソニー・ギデンズ、スコット・ラッシュ (1997) 『再帰的近代化——近現代における政治、伝統、美的原理』松尾精文・小幡正敏・叶堂隆三訳、而立書房。(Beck, Ulrich, Anthony Giddens and Scott Lash, 1994, *Reflective Modernization*, Polity.)
- ボルタンスキー、リュック&ローラン・テブノー (2007) 『正当化の理論——偉大さのエコノミー』三浦直希訳、新曜社。(Luc Boltanski et Laurent Thévenot, 1991, *De la justification, les économies de la grandeur*, Gallimard.)
- 本莊雄一・立木茂雄 (2015) 「東日本大震災における創発的・多組織ネットワーク (EMONs) の協調活動を規定する要因に関する考察」『地域安全学会論文集』27: 155-65.
- 本間照雄 (2014) 「災害ボランティア活動の展開と新たな課題」『社会学年報』43.
- 前田幸男 (2023) 『「人新世」の惑星政治学——ヒトだけを見れば済む時代の終焉』青土社.
- 間苧谷榮 (2000) 『現代インドネシアの開発と政治・社会変動』勁草書房.
- 真木悠介 (2003) 『時間の比較社会学』岩波書店〔岩波現代文庫〕.
- 牧野智和 (2022) 『創造性をデザインする——空間建築の社会学』勁草書房.
- 松井克浩 (2008) 『中越地震の記憶——人の絆と復興への道』高志書院.
- (2021) 『原発避難と再生への模索——「自分ごと」として考える』東信堂.
- 澳門街坊會聯合總會 (2004) 『澳門街坊會聯合總會成立二十周年記念冊』.
- 松原治郎 (1978) 『コミュニティの社会学』東京大学出版会.
- ・似田貝香門 (1976) 『住民運動の論理——運動の展開過程・課題と展望』学陽書房.
- 松宮朝 (2022) 『かかわりの循環——コミュニティ実践の社会学』晃洋書房.
- 松本三和夫 (2009) 『テクノサイエンス・リスクと社会学——科学社会学の新たな展開』東京大学出版会.
- 編 (2021) 『科学社会学』東京大学出版会.
- 町村敬志 (2006) 「グローバリゼーションと地域社会」町村敬志編『地域社会学の視座と方法』東信堂.
- (2011) 『開発主義の構造と心性——戦後日本がダムで見た夢と現実』御茶の水書房.
- 丸山真央 (2015) 『「平成の大合併」の政治社会学——国家のリスケーリングと地域社会』御茶の水書房.
- ミアレ、エレヌ (2014) 『ホーキング Inc.』河野純治訳、柏書房。(Hélène Mialet, 2012, *Hawking Incorporated: Stephen Hawking and the Anthropology of the Knowing Subject*, University of Chicago Press.)
- 三浦倫平 (2016) 『「共生」の都市社会学』新曜社.
- 三井さよ (2023) 『知的障害・自閉の人たちと「かかわり」の社会学——多摩とたこの木クラブを研究する』生活書院.
- 室井研二 (2011) 『都市化と災害——とある集中豪雨災害の社会的モノグラフ』大学教育出版.
- 文貞實 (2022) 『ライフ・トークの社会空間——1990~2000年代の女性野宿者・在日朝鮮人・不安定労働者』松籟社.
- 望月美希 (2020) 『震災復興と生きがいの社会学——〈私的な問題〉から捉える地域社会のこれから』御茶の水書房.

- 森下翔 (2022) 「ANT と科学——史料分析と参与観察に基づく科学観・科学者観の更新」 栗原亘編『アクターネットワーク理論入門——「モノ」であふれる世界の記述法』ナカニシヤ出版.
- モル、アネマリー (2016) 『多としての身体——医療実践における存在論』 浜田明範・田口陽子訳、水声社. (Annemarie Mol, 2003, *The Body Multiple: Ontology in Medical Practice*, Duke University Press.)
- 山口稔 (2000) 『社会福祉協議会理論の形成と発展』 八千代出版.
- 山下晋司 (1999) 『バリ 観光人類学のレッスン』 東京大学出版局.
- 山下祐介 (2013) 『東北発の震災論 周辺から広域システムを考える』 筑摩書房.
- ・作道信介・杉山祐子編 (2008) 『津軽、近代化のダイナミズム』 御茶の水書房.
- 山本薫子 (2019) 「都市における共同性の構築・再構築をめぐる可能性と課題」『地域社会学年報』 31: 15-29.
- ヤング、アイリス・マリオン (2020) 『正義と差異の政治』 飯田文雄・菊田真司・田村哲樹監訳、法政大学出版局. (Iris Marion Young, 2020, *Justice and the Politics of Difference*, Princeton University Press.)
- 横山純一 (2012) 「病院事業の広域連合制度の成立と今後の広域連合立病院・診療所の経営と財政の課題——青森県西北五地域の事例」『自治総研』 38(9): 1-31.
- 吉田敬 (2021) 『社会科学の哲学入門』 勁草書房.
- 吉野英岐・加藤眞義編 (2019) 『震災復興と展望——持続可能な地域社会を目指して』 有斐閣.
- 吉原直樹 (1980) 『地域社会と地域住民組織——戦後自治会への一視点』 八千代出版.
- (2000a) 「地域住民組織における共同性と公共性——町内会を中心として」『社会学評論』 200: 140-153.
- (2000b) 『アジアの地域住民組織——町内会・街坊会・RT/RW』 御茶の水書房.
- (2004) 『時間と空間で読む近代の物語——戦後社会の水脈をさぐる』 有斐閣.
- (2008a) 「デサとバンジャール——歴史的展開と布置構成」 吉原直樹編『グローバル・ツーリズムの進展と地域コミュニティの変容——バリ島のバンジャールを中心として』 御茶の水書房.
- (2008b) 「アーバン・バンジャールの一存在形態——デンパサール市バンジャール・グレンチェンの事例」 吉原直樹編『グローバル・ツーリズムの進展と地域コミュニティの変容——バリ島のバンジャールを中心として』 御茶の水書房.
- (2008c) 「防災ガバナンスの可能性と課題」 吉原直樹編『防災の社会学』 東信堂.
- (2008d) 『モビリティと場所』 東京大学出版会.
- (2013) 『「原発さまの町」からの脱却——大熊町から考えるコミュニティの未来』 岩波書店.
- (2021) 『震災復興の地域社会学——大熊町の10年』 白水社.
- (2022) 『モビリティーズ・スタディーズ』 ミネルヴァ書房.
- ・伊藤嘉高・菱山宏輔 (2004) 「バンジャールの組織的構成と機能——アンケート結果第一次報告」『東北大学文学研究科研究年報』 54: 1-40.
- ・高橋強・伊藤嘉高 (2004) 「中国返還後のマカオの地域住民組織の存在形態とコミ

- ユニティの変容に関する予備調査」平成 15 年度科学研究費補助金研究成果報告書.
- 頼政良太・宮本匠 (2022) 「日本における災害ボランティアセンターのこれまでとこれから——『公』と『民』の対立を乗り越えた先に」『実験社会心理学研究』61 (2): 37-56.
- ラクラウ、エルネスト & シャンタル・ムフ (1992) 『ポスト・マルクス主義と政治——根源的民主主義のために』山崎カヲル訳、大村書店. (Emesto Laclau and Chantal Mouffe, 1985, *Hegemony and Socialist Strategy*, Verso.)
- ラッシュ、スコット (1997) 『ポスト・モダニティの社会学』田中義久監訳・清水瑞久ほか訳、法政大学出版局 (Scott Lash, 1990, *Sociology of Postmodernism*, Routledge.)
- (2005) 『情報批判論——情報社会における批判理論は可能か』相田敏彦訳, NTT 出版. (Scott Lash, 2002, *Critique of Information*, Sage.)
- ラトゥール、ブリュノ (1999) 『科学がつくられているとき——人類学的考察』(川崎勝・高田紀代志訳) 産業図書. (Bruno Latour, 1987, *Science in Action: How to Follow Scientists and Engineers through Society*, Harvard University Press.)
- (2007) 『科学論の实在——パンドラの希望』川崎勝・平川秀幸訳、産業図書. (Bruno Latour, 1999, *Pandora's Hope: Essays on the Reality of Science Studies*, Harvard University Press.)
- (2008) 『虚構の「近代」——科学人類学は警告する』川村久美子訳、新評論. (Bruno Latour, 1991, *Nous n'avons jamais été modernes. Essai d'anthropologie symétrique*, La Découverte.)
- (2017) 『近代の「物神事実」崇拝について——ならびに「聖像衝突」』荒金直人訳、以文社. (Bruno Latour, 2009, *Sur le culte moderne des dieux faitiches suivi de Iconoclash*, La Découverte.)
- (2019) 『社会的なものを組み直す——アクターネットワーク理論入門』伊藤嘉高訳、法政大学出版局. (Bruno Latour, 2005, *Reassembling the Social: An Introduction to Actor-Network-Theory*, Oxford University Press.)
- (2020) 「批判はなぜ力を失ったのか——〈厳然たる事実〉から〈議論を呼ぶ事実〉へ」伊藤嘉高訳『エクリヲ』12: 198-230. (Bruno Latour, 2004, 'Why Has Critique Run out of Steam? From Matters of Fact to Matters of Concern,' *Critical Inquiry*, 30 (2): 225-248.)
- (2023a) 『パストゥールあるいは微生物の戦争と平和、ならびに「非還元」』、荒金直人訳、以文社. (Bruno Latour, 1984, *Pasteur: guerre et paix des microbes, suivi de Irréductions*, La Découverte.)
- (2023b) 『地球に降り立つ——新気候体制を生き抜くための政治』川村久美子訳、新評論. (Bruno Latour, 2015, *Face à Gaïa: Huit conférences sur le Nouveau Régime Climatique*, La Découverte.)
- & ヴァンサン・アントナン・レピネ (2021) 『情念の経済学——タルド経済心理学入門』中倉智徳訳、人文書院. (Bruno Latour et Vincent Antonin Lepinay, 2008, *L'économie, science des intérêts passionnés: Introduction à l'anthropologie économique de Gabriel Tarde*, La Découverte.)
- リクール、ポール (1990) 『時間と物語 III 物語られる時間』久米博訳、新曜社. (Paul Ricoeur, 1985, *Temps et Récit III Le temps raconté*, Seuil.)

- リップマン、ウォルター (2007) 『幻の公衆』河崎吉紀訳、柏書房。(Walter Lippman, 1925, *The Phantom Public*, Harcourt.)
- ルフェーヴル、アンリ (2000) 『空間の生産』斎藤日出治訳、青木書店。(Henri Lefebvre, 1974, *La production de l'espace*, 4e éd., Anthropos.)
- レヴィ、ピエール (2015) 『ポストメディア人類学に向けて——集合的知性』米山優、清水高志、曾我千亜紀、井上寛雄訳、水声社。(Pierre Lévy, 1997, *L'intelligence collective: pour une anthropologie du cyberspace*, La Découverte.)
- 姜胜华 (2004) 『转型时期澳门社团研究——多元社会中法团主义体制解析』广东人民出版社。
- 和田清美 (2021) 『現代コミュニティの社会設計——新しい《コミュニティ形成・まちづくり》の思想』学文社。
- 渡戸一郎編集代表 (2017) 『変容する国際移住のリアリティ——「編入モード」の社会学』ハーベスト社。

《英語・仏語・インドネシア語文献》

- Adey, P., T. Cresswell, T. Lee, Y. Jane, A. Novoá, A. Nikolaeva, and C. Temenos (2021) *Moving Towards Transition*, Zed books.
- Akrich, Madeleine and Bruno Latour (1992) 'A Summary of a Convenient Vocabulary for the Semiotics of Human and Nonhuman Assemblies,' Wiebe E. Bijker and John Law (eds.), *Shaping Technology / Building Society: Studies in Socio-Technical Change*, MIT Press.
- Amin, Ash and Patrick Cohendet (2004) *Architectures of Knowledge: Firms, Capabilities and Communities*, Oxford University Press.
- and Nigel Thrift (eds.) (2004) *Cultural Economy: A Reader*, Blackwell.
- Anastasia, K (2020) 'Creating a hyperlocal infrastructure of care: COVID-19 Mutual Aid Groups,' June 12.
<https://www.opendemocracy.net/en/openmovements/creating-hyperlocal-infrastructure-care-covid-19-mutual-aid-groups/> (2022年8月31日アクセス)
- Ardhana, I. K. and I. N. Wijaya (2017) 'Indian Influences on Balinese Culture: the Role of Hinduism and Buddhism in Present Day Bali,' *International Research Journal of Management, IT and Social Sciences*, 4 (1): 88-105.
- Bakker, F.L.,(1993) *The Struggle of the Hindu Balinese Intellectuals: developments in modern Hindu thinking in independent Indonesia*, thesis, University of Amsterdam.
- Bell, C. and H. Newby (1976) 'Communion, communalism, class and community action: the sorce of new urban politics,' in D. Herbert and R. Johnson (eds) *Social Areas in Cities*, vol.2, Wiley.
- Billig, Micheal (1995) *Banal Nationalism*, Sage.
- Blaser, Mario (2016) 'Is Another Cosmopolitics Possible?' *Cultural Anthropology*, 31 (4): 545–70.
- Blok, Anders and Ignacio Farias (eds.) (2016) *Urban Cosmopolitics: Agencements, assemblies, atmospheres*, Routledge.
- Boon, James A. (1997) *The archaeological romance of Bali*, Cambridge University Press.
- Boxer, C.R. ed. (1984) *Seventeenth century Macau in contemporary documents and illustrations*, Heinemann.

- Cheng, P.W.M (1991) 'Chinese Settlements on Taipa and Coloane Islands in the Qing Dynasty: From Village to Market Town,' in R.D. Cremer (ed.) *Macau: City of Commerce and Culture*, API Press.
- Choi, C.C (1991) 'Settlements of Chinese Family in Macau,' in R.D. Cremer (ed) *Macau: City of Commerce and Culture*, API Press.
- Clayton, C.H (2001) '*If we are not different, we will cease to exist: culture and identity in transition era Macau*,' doctoral dissertation accepted by University of California.
- Coates, Austin (1966) *Prelude to Hong Kong*, Routledge and Kegan Paul.
- (1978) *A Macao Narrative*, Heinemann.
- Connolly, William E. (2017) *Facing the Planetary: Entangled Humanism and the Politics of Swarming*, Duke University Press.
- Cresswell, Tim (2021) 'Valuing mobility in a post COVID-19 world,' *Mobilities*, 16 (1), 51-65.
- and Peter Merriman (eds.) (2011) *Geographies of Mobilities: Practices, Spaces, Subjects*, Ashgate.
- D'Avella, Nicholas (2016) 'Manifestations of the Market: Public Audiences and the Cosmopolitics of Voice,' in Buenos Aires, Anders Blok and Ignacio Farias (eds.), *Urban Cosmopolitics: Agencements, assemblies, atmospheres*, Routledge.
- Despret, Vinciane (2004) 'The Body We Care for: Figures of Anthro-Zoo-Genesis,' *Body & Society*, 10 (2-3): 111-34.
- Douglas, Mary (1986) *How Institutions Think*, Syracuse University Press.
- Elder-Vass, Dave (2008) 'Searching for realism, structure and agency in Actor Network Theory,' *The British Journal of Sociology*, 59: 455-73.
- Fodor, Jerry (1974) 'Special Sciences (Or: The disunity of science as a working hypothesis),' *Synthese*, 28: 97-115.
- Granovetter, Mark (1990) 'The Old and the New Economic Sociology: A History and an Agenda,' in R. Friedland and A. F. Robertson (eds.) *Beyond the Marketplace: Rethinking Economy and Society*, Aldine de Gruyter.
- Geertz, Clifford (1963) *Peddlers and Princes: Social Change and Economic Modernization in Two Indonesian Towns*, University of Chicago Press.
- (1996) 'Afterword,' In S. Feld and K. Basso (eds.), *Senses of Place*, 259-62, Santa Fe: School of America Research.
- Greimas, A.J. and J. Courtés (1982) *Semiotics and Language – An Analytical Dictionary*, Indiana University Press.
- Geriya, I.W. (1977) 'Peningkatan Pengembangan Pedesaan Kasus Desa Sanur Sebagai Suatu Model,' *Pengkajian Budaya*, III (2): 75-85.
- Gunn, Geoffrey (1995) *Macau 1575-1999: An Economic and political History*, 長崎大学東南アジア研究所.
- Hall, Stuart ed. (1997) *Representation: Cultural Representations and Signifying Practices*, Sage.
- Hamilton, Clive (2017) *Defiant Earth: the Fate of Humans in the Anthropocene*, Polity.
- Harvey, David (1996) *Justice, Nature and the Geography of Difference*, Blackwell.

- Hayes, Jmaes (1977) *The Hong Kong Region 1850- 1911*, Archon.
- Howe, Leo (2001) *Hinduism & Hierarchy in Bali*, James Currey and School of American Research Press.
- Jamieson, Kathleen Hall and Albarracin Dolores (2020) ‘The Relation between Media Consumption and Misinformation at the Outset of the SARS-CoV-2 Pandemic in the US,’ *The Harvard Kennedy School Misinformation Review*, 1.
- Kato, Tsuyoshi (1989) ‘Different Fields, Similar Locusts: Adat Communities and the Village Law of 1979 in Indonesia,’ *Indonesia*, 47: 89-114.
- Keat, Russell and John Urry (1975) *Social Theory as Science*, Routledge.
- Lash, Scott (1996) ‘Tradition and the limits of difference,’ in P. Heelas *et al.* (eds.), *De-traditionalization: Critical reflections on authority and identity at a time of uncertainty*, Blackwell.
- (1999) *Another Modernity, A different Rationality*, Blackwell.
- (2000) ‘Risk culture,’ in B. Adam, U. Beck and J.V. Loon (eds), *The Risk Society and Beyond: Critical Issues for Social Theory*, London: Sage.
- (2005) ‘Lebenssoziologie: Georg Simmel in the Information Age,’ *Theory, Culture & Society*, 22(3): 1-23.
- (2010) *Intensive Culture*, London: Sage.
- Latour, Bruno (1988) ‘A Relativistic Account of Einstein Relativity,’ *Social Studies of Science*, 1 (18): 3-44.
- (1993) ‘Pasteur on Lactic Acid Yeast: A Partial Semiotic Analysis,’ *Configurations*, 1 (1): 129-46.
- (2000) ‘On the Partial Existence of Existing and Non-existing Objects,’ in Lorraine Daston (ed.) *Biographies of Scientific Objects*, Chicago University Press.
- (2004) ‘How to Talk About the Body? the Normative Dimension of Science Studies,’ *Body & Society*, 10 (2-3): 205-229.
- (2008) ‘PréfaceLe fantôme de l’esprit public: Des illusions de la démocratieaux réalités de ses apparitions,’ W. Lippman, *Le public fantôme*, Paris: Démopolis.
- (2009) ‘Where Constant Experiments Have Been Provided,’ interview, Arch 2 (Spring 2009), [http://artsci.wustl.edu/arch word/interviews/latour/interview.htm](http://artsci.wustl.edu/arch_word/interviews/latour/interview.htm). (2023 年 9 月 20 日アクセス)
- (2012) *Enquête sur les modes d’existence: Une anthropologie des Modernes*, La Découverte.
- et Emilie Hermant (1998) *Paris ville invisible*, Les Empêcheurs de penser en rond et Le Seuil.
- , P. Jensen, T. Venturini, S. Grauwin and D. Boullier (2008) The Whole is Always Smaller Than Its Parts’ A Digital Test of Gabriel Tarde’s Monads, *British Journal of Sociology*, 63 (4): 591-615.
- Law, John (2004) *After method: Mess in social science research*, Routledge.
- (2007) ‘Actor Network Theory and Material Semiotics,’ version of 25th April2007, <http://www.heterogeneities.net/publications/Law2007ANTandMaterialSemiotics.pdf> (2023 年 9 月 20 日アクセス)

- Lenior, T. (1994) 'Was That Last Turn a Right Turn? The Semiotic Turn and A. J. Greimas,' *Configurations*, 2: 119-136.
- Ljungstedt, Anders (1832) *An historical Sketch of the Portuguese Settlements in China*, Boston.
- Lo Shin Hing (1995) *Political development in Macau*, The Chinese University press.
- Macau Ricci Institute (2003) *Macau on the Threshold of the Third Millennium*, Macau Ricci Institute.
- Manor, James (1999) *The Political Economy of Democratic Decentralization*, World Bank.
- Massey, Doreen (1994) *Space, Place and Gender*, University of Minnesota Press.
- Montalto de Jesus (1926) *Historic Macau: International Traits in China Old and New*, Salesian Printing Press and Tipografia Mercantil.
- Mundy, Peter (1942) 'Description of Macao,' in C.R. Boxer, *Macau Na Epoca da Restauracao*, Imperensa Nacional, pp.51-75.
- Nail, Thomas (2018) 'Kinopolitics: Borders in Motion,' R. Braidotti and S. Bignall eds., *Posthuman Ecologies: Complexity and Process after Deleuze*, Rowman & Littlefield.
- Osborne, Thomas, Nikolas Rose and Mike Savage (2008) 'Editors' Introduction Reinscribing British sociology: some critical reflections,' *The Sociological Review*, 56 (4): 519-34.
- Pêcheux, Michel (1982) *Language, semantics and ideology: Stating the Obvious*, St. Martin's Press.
- Picard, Michel (1996) *Bali: cultural tourism and touristic culture*, Archipelago Press.
- (1999) 'Making Sense of Modernity in Colonial Bali: the polemic between Bali Adnjana and Surya Kanta (1920s),' *Dinamika Kebudayaan*, 1(3): 73-91.
- (2005) 'Otonomi Daerah in Bali: The Call for Special Autonomy Status in the Name of Kebalian,' in M. Erb, P. Sulistiyanto and C. Faucher, eds., *Regionalism in Post-Suharto Indonesia*, RoutledgeCurzon.
- Pratt, Mary Louise, (1992) *Imperial Eyes: Travel Writing and Transculturation*, Routledge
- Puig de la Bellacasa, Maria (2017) *Matters of Care: Speculative Ethics in More than Human Worlds*, University of Minnesota Press.
- Rabinow, Paul (1989) *French Modern: Norms and Forms of the Social Environment*, The University of Chicago Press.
- Reuter, Thomas A. (2004) 'Mythical centres and modern margins: a short history of encounters, crises, marginality, and social change in highland Bali,' in T.A. Reuter (ed.), *Inequality, Crisis and Social Change in Indonesia: The muted worlds of Bali*, RoutledgeCurzon.
- Sanur, Desa (1982-) *Monografi Desa Sanur*, Direktorat Pembangunan Desa.
- Sawyer, Keith (2002) 'Nonreductive Individualism, Part 1, Supervenience and wild disjunction,' *Philosophy of the Social Sciences*, 32: 537-59.
- (2005) *Social Emergence: Societies as Complex Systems*, Cambridge University Press.
- Schulte-Nordholt, Henk Schulte (1994) 'The making of traditional Bali: Colonial ethnography and bureaucratic reproduction,' *History and Anthropology*, 8(1-4): 89-127.
- Sennett, Richard (1996) *The Use of Disorder: Personal Identity and City Life*, Faber & Faber.
- Serrão, Joaquim Verissimo (1980) *Historia de Portugal*, vol. 3 and 4, Verso.
- Shearer, Elisa (2018) 'Social media outpaces print newspapers in the U.S. as a news source,' *Pew Research Center*, 10.

- Sheller, Mimi (2018) *Mobility Justice: The Politics of Movement in an Age of Extremes*, Brooklyn, Verso.
- Springer, S. (2020) 'Caring Geographies: The COVID-19 Interregnum and a Return to Mutual Aid,' *Dialogues in Human Geography*, 10 (2): 112–115.
- Stengers, Isabelle (1997) *Cosmopolitiques - tome 7: pour en finir avec la tolérance*, La Découverte.
- Suasta, Putu and Linda Connor (1999) 'Democratic mobilization and political authoritarianism: tourism developments in Bali,' *Staying local in the global village: Bali in the twentieth century*, 91-122.
- Sutawan *et. al.* (1984) *Studi Perbandingan Subak dalam Sistem Irigasi Non-PU dan Subak dalam Sistem Irigasi PU: Kasus Timbul Baru dan Subak Celuk Kabupaten Gianyar*, Universitas udayana.
- Teil, Geneviève (1998) 'Devenir expert aromaticien: Y a-t-il une place pour le goût da Cussinns les goûts alimentaires?' *Revue de Sociologie du Travail*, 40 (4): 503-22.
- T'ien-Tse Chang (1934) *Sino-Portuguese Trade: From 1514 to 1644: A Synthesis of Portuguese and Chinese Sources*, E.L. Brill Ltd.
- Tironi, Manuel and Nerea Calvillo (2016) 'Water and air: Territories, tactics, and the elemental textility of urban cosmopolitics,' in Anders Blok and Ignacio Farias (eds.), *Urban Cosmopolitics*, Routledge.
- Tsai, T.C. and A.K. Jha (2014) 'Hospital Consolidation, Competition, and Quality: Is Bigger Necessarily Better?' *JAMA*, 312 (1): 29–30.
- Uselis, William (1958) *The Origin of Makao*, M.A. dissertation submitted to University of Chicago.
- Vickers, Adrian (2004) 'Being Modern in Bali after Suharto,' in T.A. Reuter (ed.), *Inequality, Crisis and Social Change in Indonesia: The muted worlds of Bali*, RoutledgeCurzon.
- Warren, Carol (1993) *Adat and Dinas: Balinese Communities in the Indonesian State*, Oxford University Press.
- (1998) 'Tanah Lot: The Cultural and Environmental Politics of Resort Development in Bali,' in P. Hirsh and C. Warren (eds.), *The Politics of Environmental in Southeast Asia: Resources and Resistance*, pp.229-61, Routledge.
- (2000) 'Adat and the discourses of Modernity in Bali,' A. Vickers and I Nyoman Darma Putra (eds.) *To Change Bali: Essays in Honour of I Gusti Ngurah Bagus*, Bali Post.
- (2005) 'Mapping Common Futures: Customary Communities, NGOs and the State in Indonesia's Reform Era,' *Development and Change*, 36(1): 49–73.
- Welsh, Ian (1993) 'The NIMBY syndrome and its significance in the history of the nuclear debate in Britain', *British Journal for the History of Science*, 26(1): 15-32.
- (1995) *Nuclear Power: Generating Dissent*, Routledge.
- White, Ben (1979) 'Political Aspects of Poverty, Income Distribution and Their Measurement: Some Examples from Rural Java,' *Development and Change*, 10: 24-43.
- Wynne, Brian (1987) *Risk Management and Hazardous Wastes: Implementation and the Dialectics of Credibility*, Springer.
- (1990) 'Major hazards communication: Defending the challenges for research and practice, in

- H. B. F. Gow and H. Otway (eds.), *Communicating with the Public about Major Accident Hazards*, Elsevier, pp.599-612.
- (1992) 'Misunderstood Misunderstandings: Social Identities and Public Uptake of Science', *Public Understanding of Science* 1: 281–304.
- (2005) 'Reflexing Complexity: Post-genomic Knowledge and Reductionist Returns in Public Science', *Theory, Culture & Society*, 22(5): 67-94.
- Yayasan Pembangunan Sanur (2000) *Hasil Muker III Yayasan Pembangunan Sanur Tahun 2000*.
- (2005) *Hasil Muker IV Yayasan Pembangunan Sanur Tahun 2005*.
- Yee, H. S. (2001) *Macau in Transition: From colony to autonomous region*, Palgrave.